

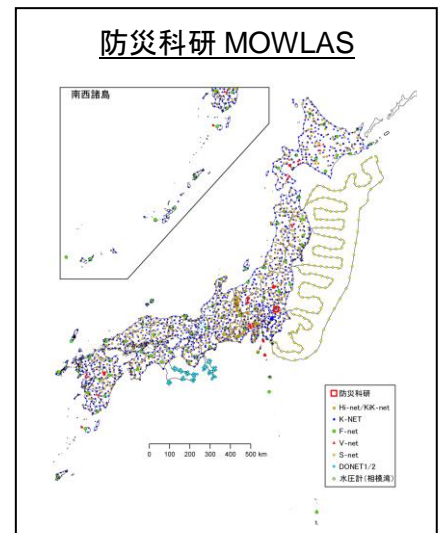
第227回地震予知連絡会 重点検討課題 趣旨説明

「日本列島モニタリングの将来像」について

コンビーナ 東京大学地震研究所 小原一成

1. 背景

日本列島周辺では、度重なる地震・火山・津波災害を教訓として、これらの地球現象を正確に把握し、災害予測の評価に資するため、防災科研の MOWLAS に代表されるような世界屈指の広範囲で稠密な地殻活動観測網を整備してきた。その結果、当初の目的を達成しつつ、深部及び海溝付近の低周波微動をはじめとする様々なスロー地震の発見など、サイエンス面でも多大なる貢献を果たしてきている。



2. 課題

日本列島周辺における地殻活動モニタリングに関する現状の課題は何か、その解決のために何が必要か。今後、どのような目的のためにどのようなモニタリングが必要とされるか、そのモニタリングを実現するためにはどのような技術が必要か。

3. 報告 (予定)

- ① 海域観測
- ② 陸域 GNSS 観測
- ③ 陸域基盤的地震観測
- ④ 陸域稠密観測
- ⑤ DAS

4. 論点 (予定)

・現在の地殻活動モニタリングの成果を踏まえて、今後どのような成果が期待できるか、また、現状の課題を整理したうえでその課題解決方策について議論する。

・現在のモニタリングシステムがその目的に照らして有効に機能しているかどうかを評価し、有効であるならば今後どこまで継続が可能か、また更なる継続のためには何が必要か、について議論する。

・今後、何のためにどのようなモニタリングを行うべきか、そのためにはどのような技術が必要になるか、その実現性の見通しはどうか？

・今後のモニタリングを支える体制、仕組みはどうあるべきか？